

2016年5月20日



リオン株式会社

2016年3月期決算説明会

東証一部 証券コード：6823

【免責事項】本資料に掲載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

I 決算ハイライト

- 2016年3月期の実績
- 次期見通し

常務取締役 大内 武彦

II 今後の事業戦略

- 経営指標
- 今後の重点施策

代表取締役社長 清水 健一

I 決算ハイライト

- 2016年3月期の実績
- 次期見通し

常務取締役 大内 武彦



売上高は前年を上回る

- 補聴器、微粒子計測器の販売増により増収。

営業利益・経常利益は減少も、最終利益は増加

- 音響・振動計測器の新製品開発費用が増加したことなどにより、営業利益は2.7%減少。
- 法人税率の引き下げ等により、最終利益は4期連続で増加。

連結損益計算書



売上原価のうち、新製品開発費用等が増加
法人税率の引き下げのほか、開発費にかかる税額控除を適用

(単位：百万円)

	2015年3月期	2016年3月期	前期比	
			増減額	増減率(%)
売上高	18,758	18,859	100	0.5
売上原価	8,756 (46.7)	8,945 (47.4)	189	2.2
売上総利益	10,001 (53.3)	9,913 (52.6)	△88	△0.9
販売費及び一般管理費	7,669 (40.9)	7,644 (40.5)	△25	△0.3
営業利益	2,332 (12.4)	2,268 (12.0)	△63	△2.7
経常利益	2,413 (12.9)	2,370 (12.6)	△43	△1.8
法人税等合計	1,021 (5.4)	771 (4.1)	△249	△24.4
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,427 (7.6)	1,594 (8.5)	167	11.7

※()内は対売上高比率：%

セグメント別の実績

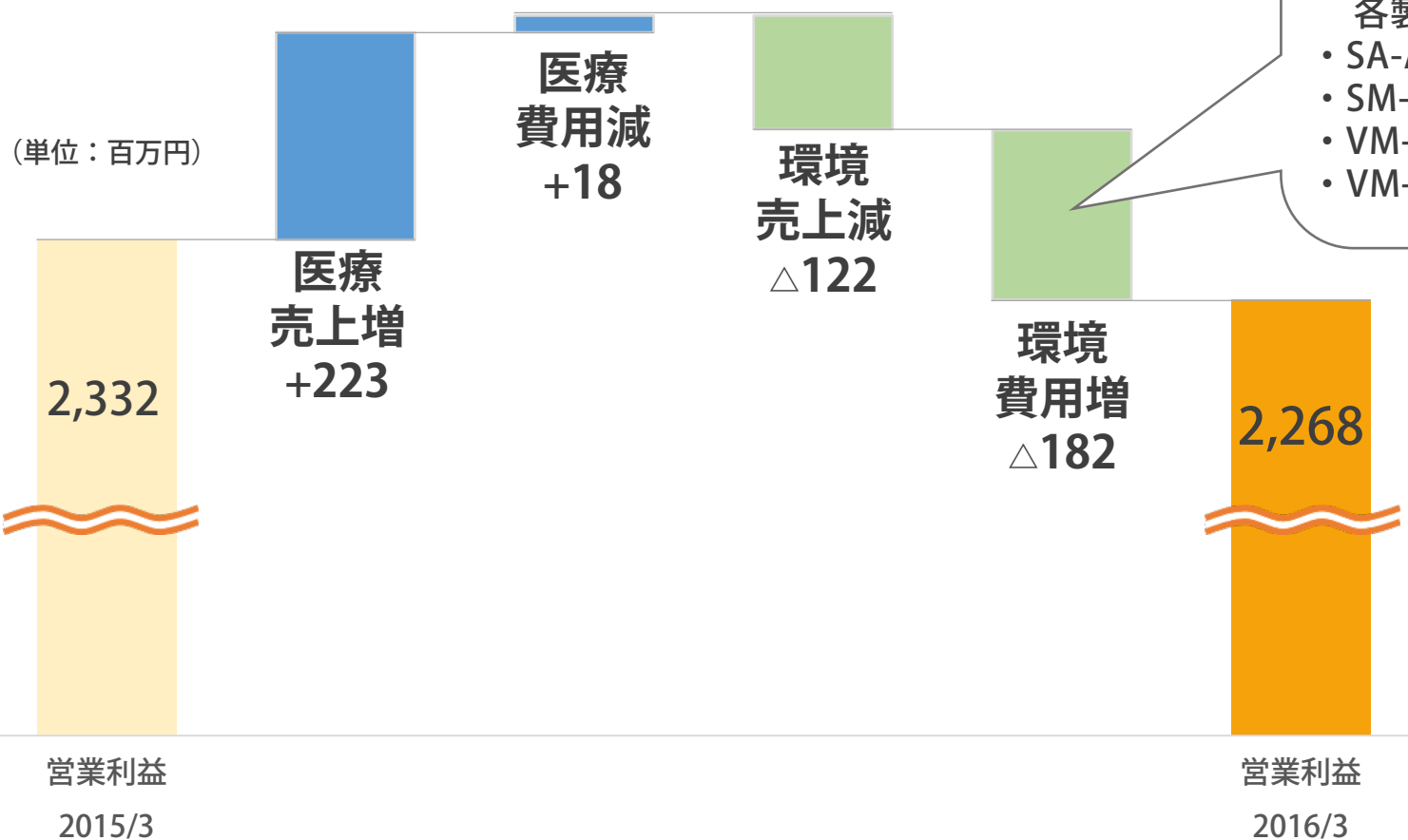
(単位：百万円)

	2015年3月期	2016年3月期	前期比	
			増減額	増減率(%)
売上高	18,758	18,859	100	0.5
医療機器事業	11,121	11,345	223	2.0
補聴器	8,659	8,994	334	3.9
医用検査機器	2,462	2,350	△111	△4.5
環境機器事業	7,636	7,513	△122	△1.6
音響・振動計測器	4,682	4,515	△166	△3.6
微粒子計測器	2,953	2,997	44	1.5
営業利益	2,332 (12.4)	2,268 (12.0)	△63	△2.7
医療機器事業	1,254 (11.3)	1,496 (13.2)	242	19.3
環境機器事業	1,077 (14.1)	772 (10.3)	△305	△28.3

※()内は対売上高比率：%

営業利益減の要因分析

環境機器事業の費用増加が大きく影響



主な要因・・・
音響・振動計測器の新製品開発費等が増加

- 各製品の発売時期
- ・SA-A1 (2014/10)
 - ・SM-29 (2014/12)
 - ・VM-82A (2015/2)
 - ・VM-55 (2015/6)



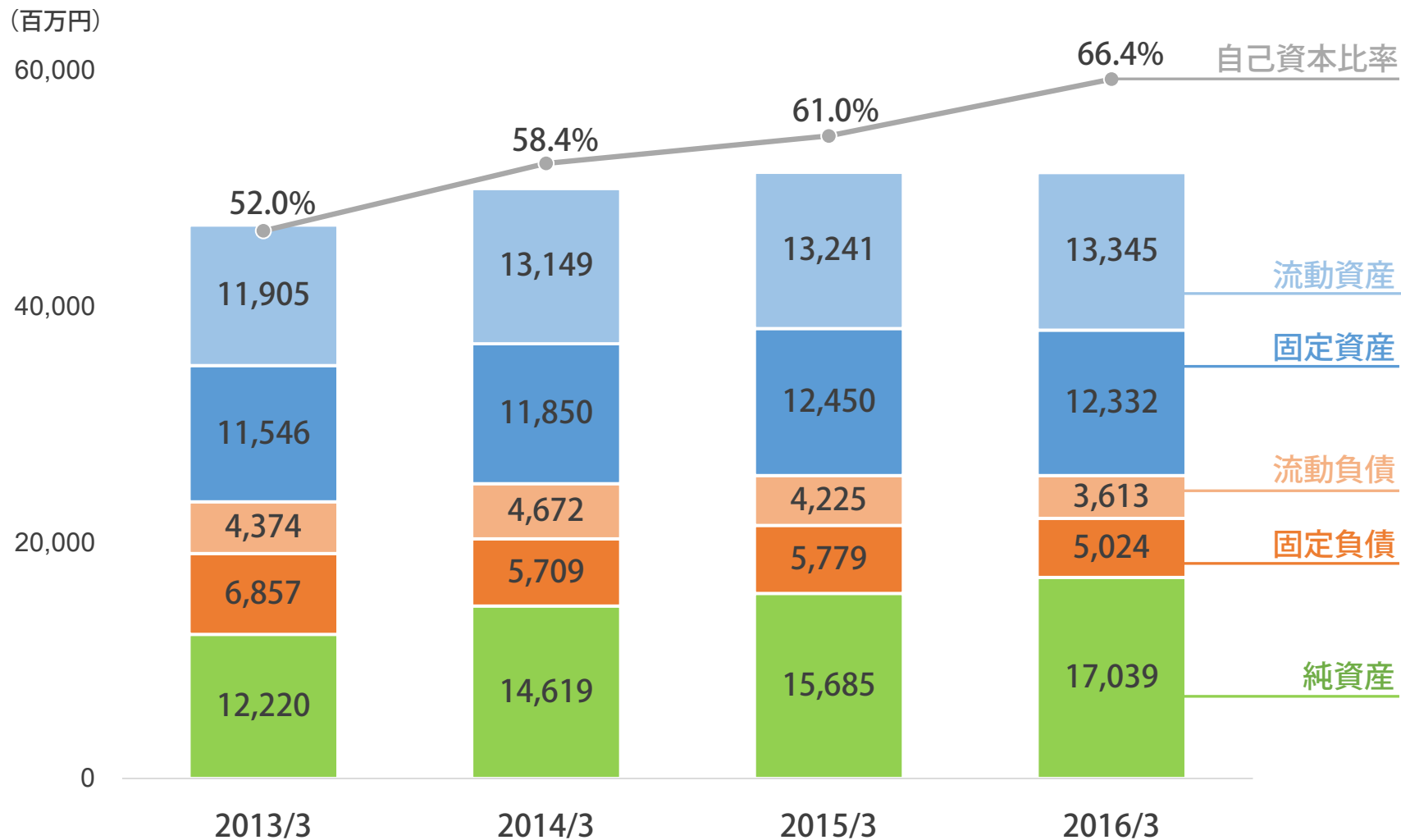
SA-A1



SM-29

連結貸借対照表の推移

負債の圧縮により財務体質のいっそうの改善が進む



連結キャッシュ・フロー計算書



(単位：百万円)

	2015年3月期	2016年3月期	前期比 増減額
営業活動 C/F	1,457	2,142	685
投資活動 C/F	△1,183	△ 536	647
財務活動 C/F	△588	△ 1,274	△686
キャッシュの増減	△314	332	646
期末残高	2,466	2,798	332

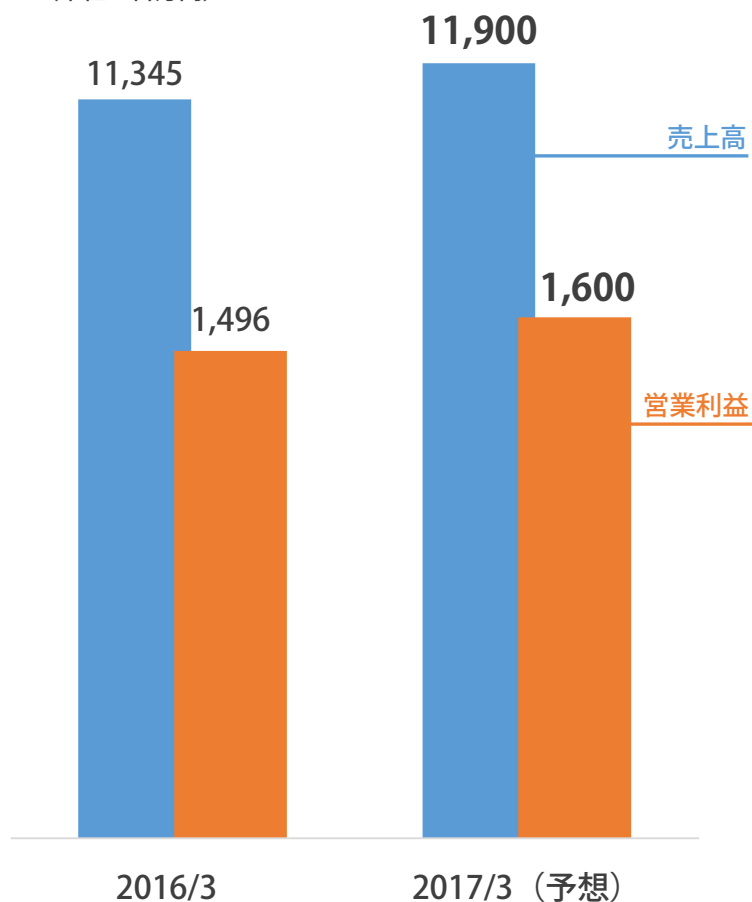
2017年3月期の見通し

(単位：百万円)

	2016年3月期		2017年3月期		前期比	
					増減額	増減率(%)
売上高	18,859		19,700		840	4.5
医療機器事業	11,345		11,900		554	4.9
環境機器事業	7,513		7,800		286	3.8
営業利益	2,268	(12.0)	2,500	(12.7)	231	10.2
医療機器事業	1,496	(13.2)	1,600	(13.4)	103	6.9
環境機器事業	772	(10.3)	900	(11.5)	127	16.5
経常利益	2,370	(12.6)	2,500	(12.7)	129	5.5
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,594	(8.5)	1,800	(9.1)	205	12.9
1株当たり当期純利益(円)	129.99		146.61			—

※()内は対売上高比率：%

(単位：百万円)



増収増益 (予想)

(売上高4.9%↑、営業利益6.9%↑)



補聴器は市場全体が好調に推移すると予想。製品ラインナップの拡充や販売店増加施策を実施。

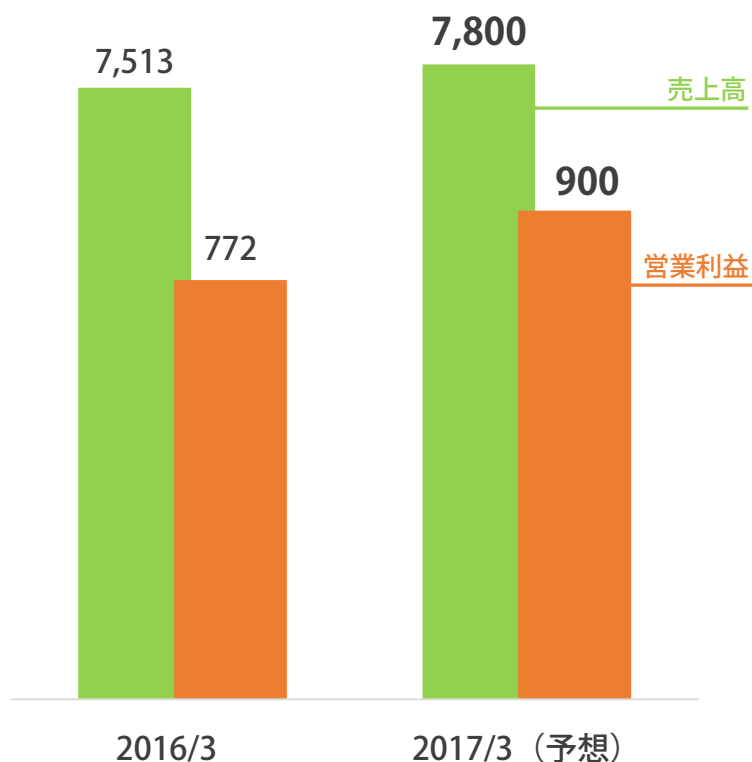


医用検査機器は国内の安定的な需要に加え、中国等の海外市場での販売強化。

増収増益（予想）

（売上高3.8%↑、営業利益16.5%↑）

（単位：百万円）



音響・振動計測器は国内市場での販売拡大とともに、中国、欧州、東南アジアなどの海外市場への展開を推進。



微粒子計測器は、半導体関連メーカーからの最先端機種への需要増に加え、再生医療分野での気中微粒子計の拡販見込む。

II 今後の事業戦略

- 経営指標
- 今後の重点施策

代表取締役社長 清水 健一

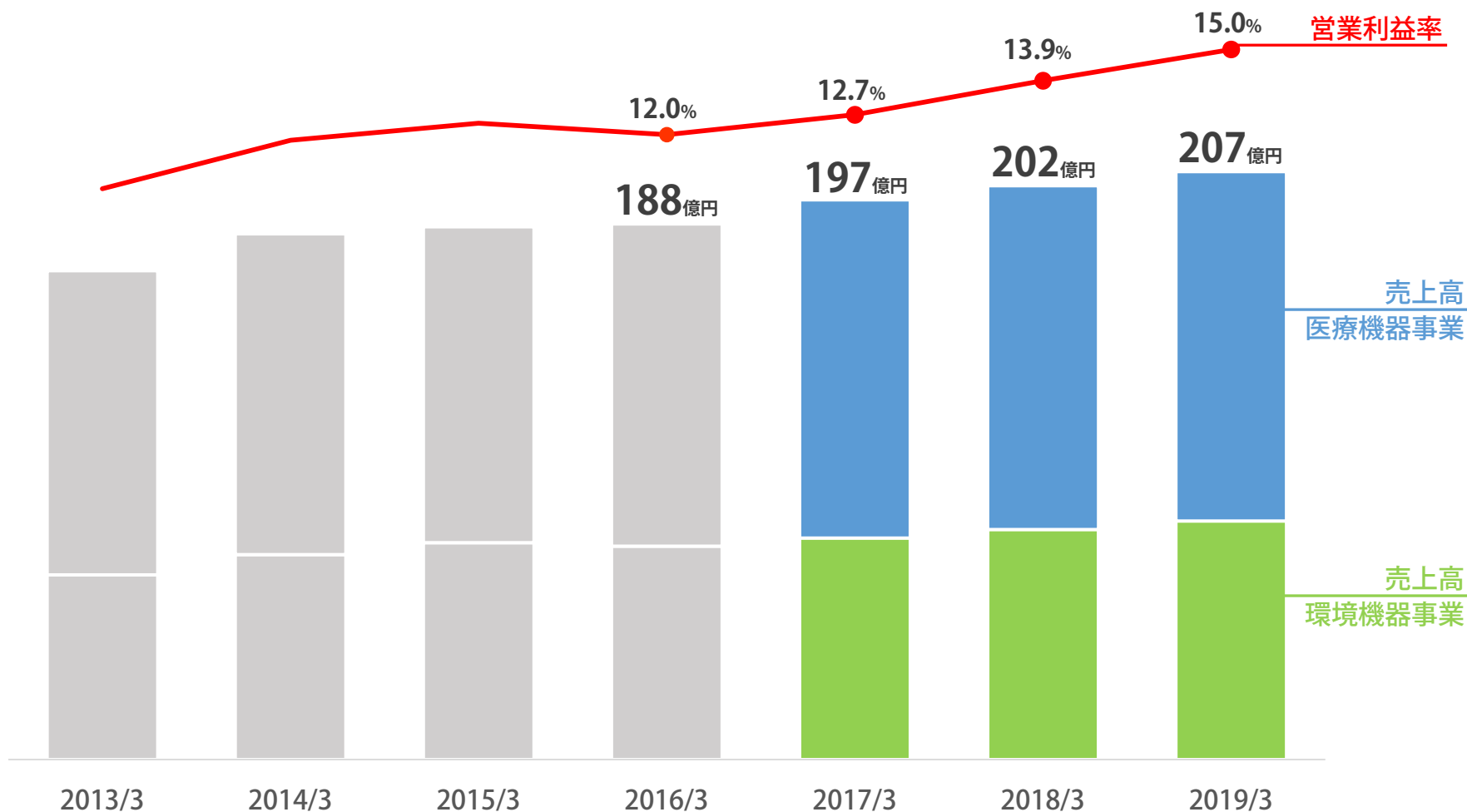


連結売上高200億円以上

営業利益率15%以上

ROE(自己資本当期純利益率)10%以上

今後3年間の業績見通し



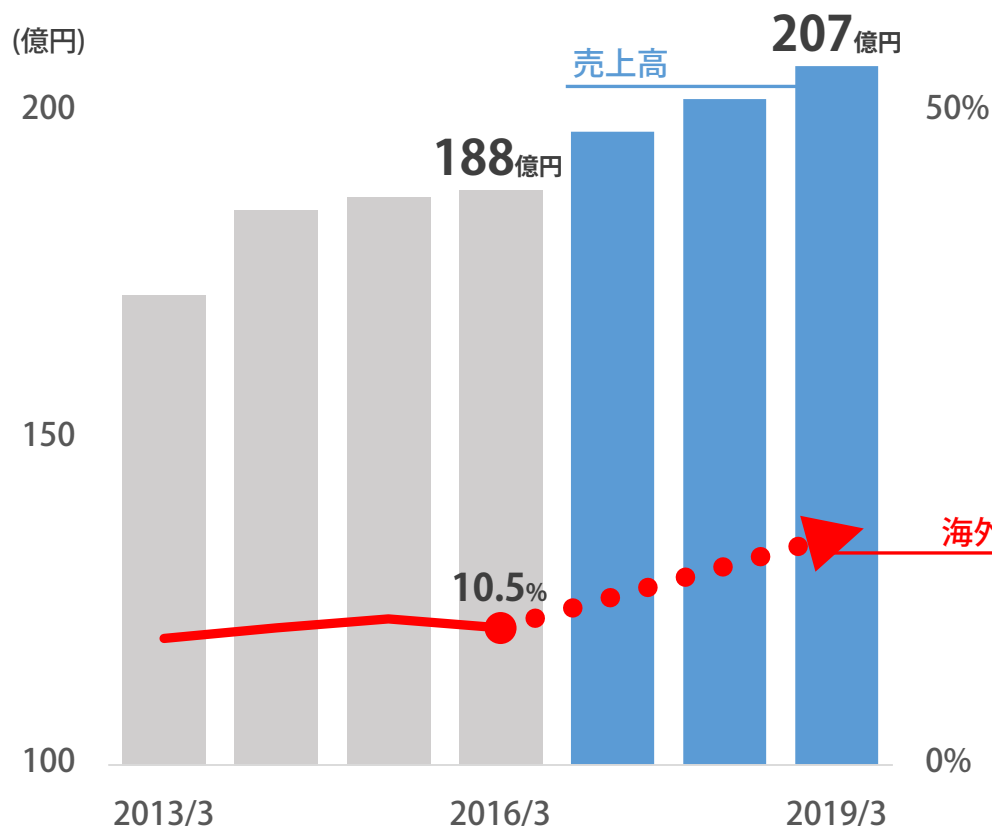
売上高の増加→固定費割合の低下→営業利益率の向上

グローバル展開

補聴器販売店網の拡充

新技術による市場創出

売上高と海外売上高比率の推移



海外売上高の比率を高める

国内市場が成熟しつつある中、新興国を主なターゲットに据えて海外での事業展開を加速させる。

海外売上高比率

上海の販売子会社を中心に販売活動

- **医用検査機器**の中国市場での認知度向上を図る。特に都市部の大型病院を対象とする。
- **音響・振動計測器**は日系企業はもとより中国企業や政府系機関への販売を強化。

微粒子計測器の高価格機種種の販売を推進

- 台湾、韓国、中国が重要地域であるが、特に韓国を強化地域として最先端機種を中心に販促活動を展開。



KS-19F

半導体製造現場において求められる「微細化」に対応。世界最小の30nmを測定可能。今後も微細化要求に応える製品を投入予定。

ベトナム最大の病院と医療協力

- 4/25、ベトナム最先端の医療機関、国立バックマイ病院の越日聴覚センターが設立。当社は検査装置を提供するとともに、聴力検査の普及を支援。
- ベトナムの難聴者数は約450万人と推定。正確な聴覚検査に基づいた補聴器の販売体制の普及を目指す。



開所式の様子
右：国立バックマイ病院
Assoc. Prof. Do Doan Loi Deputy Director
左：当社社長 清水健一

日系企業向けの販売を強化

- 現地の日系商社との連携を強化することで、音響・振動計測器のシステム案件の受注を目指す。
- タイ、マレーシアを重要な地域と位置づける。

音響・振動計測器の産業分野における顧客を開拓

- ・ 欧州では環境計測市場が主であったが、販売エリア拡大のために産業計測市場への展開を強化する。このために日系商社や新たな現地販売店の開拓を行う。

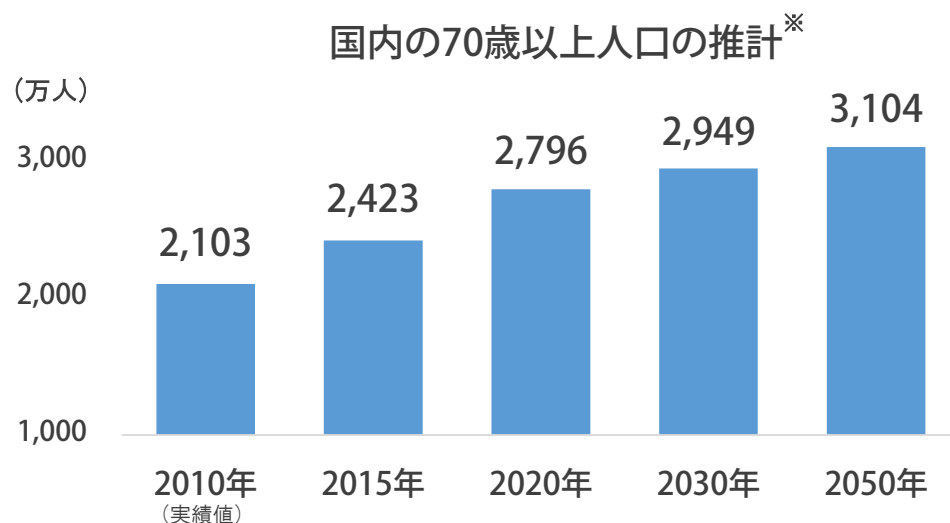


SA-A1で当社技術をアピールし、
現地での認知度の向上を図る。

タブレット型多機能計測システム「SA-A1」

国内の補聴器市場は成長基調

- 国内でのリオネット補聴器専門店の新規出店を押し進め、シェアの維持、拡大に努める。年間10店舗が目標。
- 当社独自の顧客管理システムなどのツールの提供や、きめ細やかなサポートにより販売店を支援し、質の高さにおいて差別化を図る。



国内における補聴器の
潜在ユーザーは今後も増加

※出典：平成27年高齢者白書

生物粒子計数器の認知度を向上

- 浄水場向けに販売を開始。
- 透析市場向けは、現場のニーズに応えるための仕様の検討が進む。

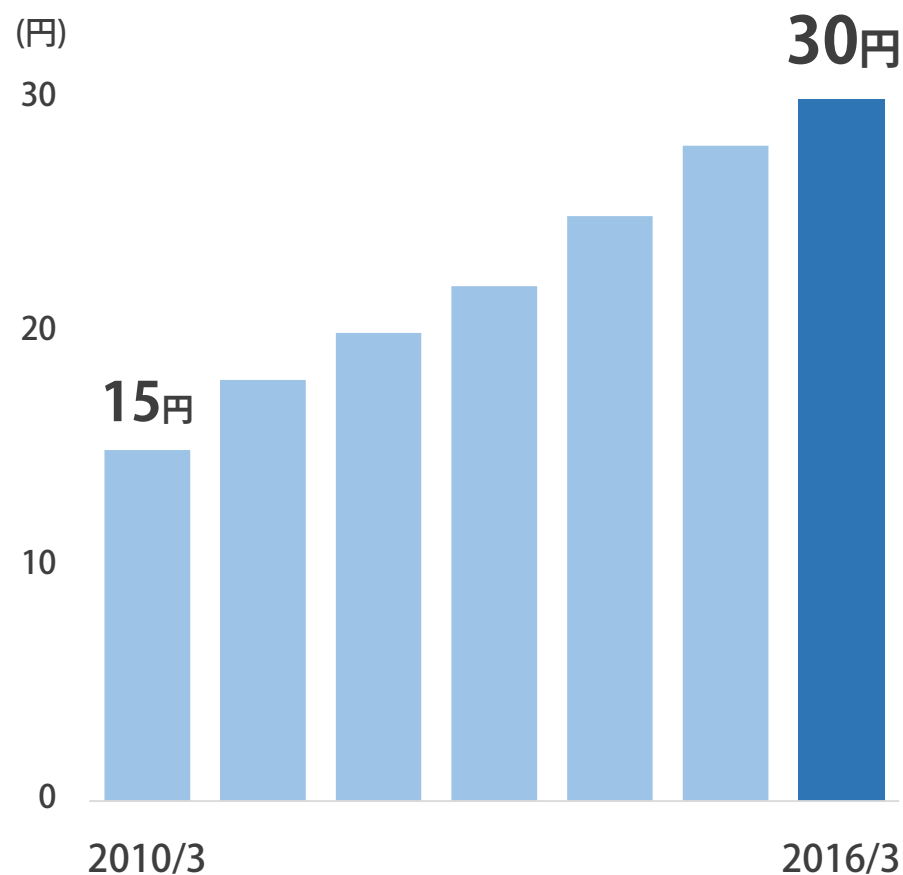


軟骨伝導補聴器の市場投入

- 臨床試験が終了し、製品化に向けての準備が進行中。
- 医薬品医療機器等法の認証取得の手続きを開始。



一株当たり配当金



6期連続での増配

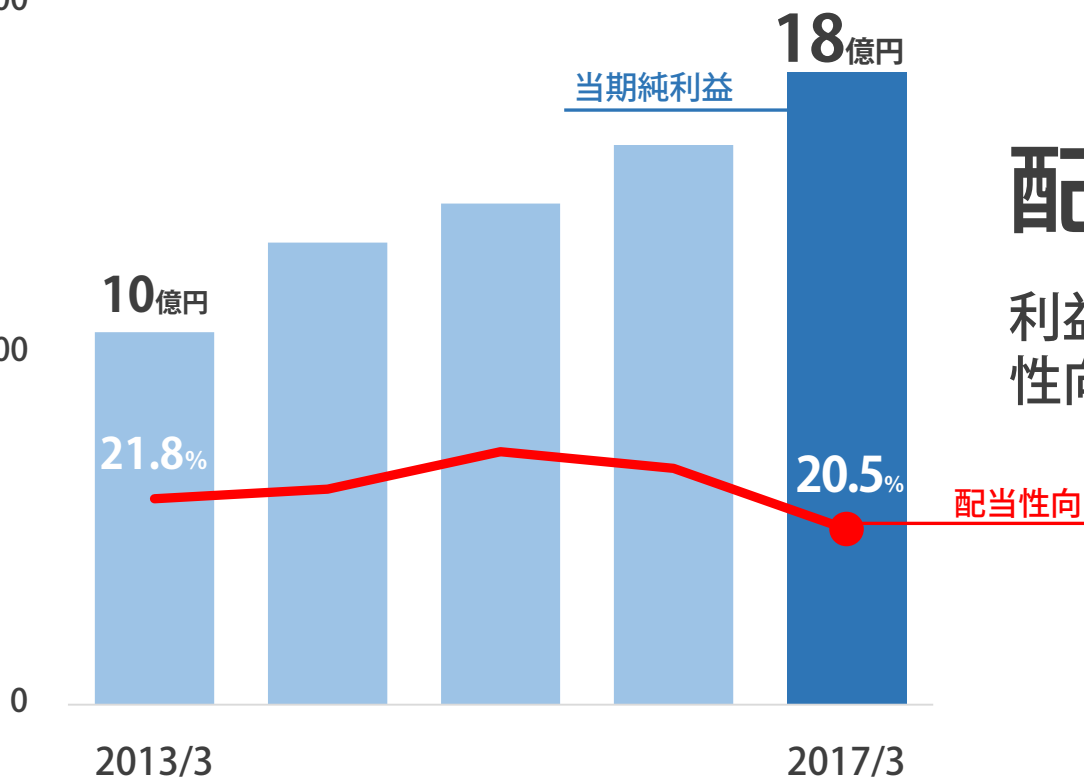
業績に応じた配当水準の向上。

当期純利益と配当性向

(百万円)

2,000

1,000



配当性向の維持

利益が順調に増加する中、配当性向は一定の水準を維持。